

5-C 地域貢献の取り組みについて

5-C-① 地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等を実施している。

【現状】

本学の所有する知的資源および教育情報等を広く社会に提供することを目的とし、平成12年度、社会人および学生を対象に特別公開講座「たいし塾」を民間カルチャー組織（株式会社毎日文化センター）との提携により開設した。平成18年度より、それまで全12回、年3期の実施であったものを費用対効果が見込めないとの理由により年2期の実施とし、平成19年度よりカリキュラムの変更によって、単位認定を伴わない特別公開講座となった。しかし、1つのテーマを複数の講師が担当するオムニバス形式によって、きめ細やかな講座が展開され、また、開設してから10年という時間的経過と共に受講者の認知度や年齢層は広がりを見せ、定評が高い。

平成20年度は、統一テーマを「未来に尽くすー21世紀に生きるー」と題し、前期では「日本と中国・イスラームとー受容と展開、過去から未来へー」を、後期では「聖徳太子の教えと現代」をとりあげ、受講者数は延べ571名であった。平成21年度は「未来に尽くすー我々が歩むべき道ー」を統一テーマに「現代日本のモラルのあり方を問う」「仏教が歩んできた道」をそれぞれ前期、後期テーマとして延べ471名が受講した。

そして、平成22年度は、統一テーマ「かけがえのない今を生きるー時代と人間を見つめてー」と題し、前期「異文化との対話から学ぶ」、後期「般若心経を読み解く」をテーマに、延べ679名が受講した。また、平成13年度に羽曳野市が「はびきの市民大学」を開学したことを受けて、羽曳野市と提携し、講座に向けて地域性を重視したカリキュラムを作成し、専門的かつ体系的な学習機会の提供に努め、現在に至っている。

延べ受講者数は、平成20年度（4講座）155名、平成21年度（4講座）172名、平成22年度（4講座）139名であった。更に、平成7年度から平成20年度まで大阪府立文化情報センターと共催してきた公開講座は、平成21年度より共催機関を大阪府に移して一般を対象に無料で実施している。平成20年度は、テーマを「古代日本の国家形成と文化受容」と題し、受講者数467名、平成21年度は、「子どもたちの“いま”を理解する」と題して受講者数69名、平成22年度は、「動乱の時代の思想と文学」と題して、271名が受講した。

生涯学習事業としては、「オープンカレッジ」を開講している。語学、文化、創作、健康、子ども向け講座など前期、後期の2期に分けて、平成20年度は107講座、平成21年度は138講座、平成22年度は153講座を開講した。特に平成21年度からは、これまでの学内キャンパスだけでなく、新しく誕生した藤井寺駅前キャンパスでも開講しており、多様な生涯学習プログラムを提供している。

その他、本学では、「教員免許更新講習会」、平成22年度は高大連携事業を開始するなど、多くの社会人や地域の方々、高校生に対して幅広く生涯学習の「場」や「機会」を提供し、生涯学習振興に力を注いでいる。

【課題】

このように、これらの公開講座や生涯学習振興への取り組みとして、受講者はどのような興味・関心を持っているのか調査し、満足を得られる講座を開設していかなければなら

ない。併せて、費用対効果も検討しながら、藤井寺駅前キャンパスをこれまで以上に活用する必要がある。また、講師も時間的な制約がある中でかかる負担は大きく、その改善策が求められる。

【改善計画】

今後は、“地域への更なる貢献”という観点から、平成22年度まで大阪府北エリアを中心に展開してきた特別公開講座「たいし塾」を平成23年度からは大阪府南エリア（藤井寺駅前キャンパス）にて実施させ、新しい公開講座のスタイルを確立する必要がある。このことは、大学に近く、駅前である利便性を活用し、かつ、講座が増えていく中での講師負担を軽減させる一助ともなり得る。地域への知的資源の開放が大学の認知度を高めていることを念頭に置き、利点を生かした広報活動を効果的に行うことが必要である。

5-C-② 地域社会の行政、商工業、教育機関及び文化団体等と交流活動を行っている。

【現状】

本学では、聖徳太子の建学の精神に則り、人間教育・人材育成を柱に、本学の保有する知的資源および教育関連施設を広く社会に開放し、太子の教えに宿る「和の精神」の実践を理念に掲げ、平成9年にエクステンションセンターを設立した。当センターは、教育・研究にならぶ社会貢献の使命を受けて、生涯教育専門機関としての役割を果たし、広域の生涯学習振興に寄与し、地域社会との共生・交流に注力するほか、人々の自己啓発や生き甲斐の一助として、様々な教育事業に取り組み、多種多様な社会的活動を実践している。そのはじめとして、公的機関との共催事業による公開講座や公開シンポジウムでは、社会の要請・ニーズを調査、分析し、講演やディスカッションを通じて、現代に学ぶ「場」と「機会」を提供している。また、地域自治体や施設、企業、各種団体に対しては、講師派遣を積極的に推進し、知的資源の開放を図り、地域と密着した大学の在り方を示すと同時に、「人・まち・社会」づくりに寄与している。また高大連携事業では、地域の高校と提携し、本学教育職員による出張講義等を行ない、高校生の進路選択の一助を担っている。その他にも、IBU桜WEEKSや生涯学習フェスタでは、自然あふれるキャンパスと充実した学舎を一般の方々に開放し、生涯学習に参画される人々にとっての快適な「交流・情報交換の場」と「多様な学習機会」の実現を創出している。

当センターが設立されて以来、年月を重ね、地域社会に対して「生涯学習振興」や「交流・情報交換」、「学習機会の提供」といった使命を果たしてきたことは、老若男女全ての参加者の知的好奇心を高め、本学の「教育・研究の向上に資するもの」として一定の評価を得ている。特に、IBU桜WEEKSでは、平成20年度に続き、舞台発表や芸能人イベントを撤廃しながらも、大学開放という本来の地域交流を推し進め、多くの人々に大学へ足を運んでもらう気軽さを定着させた。また、秋の祭典である生涯学習フェスタは、大学祭と同時開催となっていることで、地域社会人と学生の双方が、発表や展示を通じてお互いの良さを認識し、文化的価値を更に昇華させている。それは来場者からの好評を得て、大学を「温故知新」の香りが漂う空間へと進化させた。また、平成22年度は松原商工会議所の主催する松原産業フェア出展も試みるなど、地元の商工会議所とも交流活動を行っている。

【課題】

今後、地域への文化、情報の発信と人々の生涯学習への参加を更に推し進めるために、教職員をはじめ、学生のこれまで以上の積極的な参加は欠かせない。これは、「交流・情報交換の場」と「多様な学習機会」の実現が、本学ならびに学生に還元され、再び「人・まち・社会」へと循環する流れの構築によって、地域との共生が揺るぎないものとなるからである。しかしながら、事業の拡大を視野に入れば、人件費や会場設営費、広告宣伝費などの経費面での課題や、参加者ニーズ把握、いかに多くの来場者を集めるかなどのソフト面の課題が考えられる。

【改善計画】

生涯学習事業で、経費面での補填は避けられず、経費を節約した中での事業の充実も改善向上策の柱となってくる。またソフト面では、アンケート等による分析など、社会動向や参加者ニーズを把握し、本学の保有する知的資源および教育関連施設を広く社会に開放していく。心のよりどころを求める行為が人間力向上に繋がるのであるならば、生涯学習はその一角を担う要素として特に重要である。人々が学び、語らい、交流を図り、これからの将来にふさわしい新しい文化と豊かな人材を創生していくために、その時々求められるものを捉えていくことが大切である。

5-C-③ 教職員及び学生がボランティア活動等を通じて地域に貢献している。

○ キャリアセンターでの取り組み

【現状】

福祉・保育職において、専門就職前の職場体験のためにボランティアを行うことがある。学校支援ボランティアは、教職支援センターにおいて紹介している。近隣の藤井寺市や羽曳野市はもとより大阪府全域にわたり各自治体、学校・園からボランティア募集の情報収集を行い学生に情報提供している。

また、学生からの相談を受け付けて助言・指導を行い、学校支援ボランティアを支援している。

【課題】

上記のボランティアは職場見学の意味合いが強いため、本来のボランティア活動とは異なる。また、学生の主導で行なっており、全て報告はされていないので参加の現状把握には至っていない。学校支援ボランティアは参加人数が数名と少ない。

【改善計画】

関連部署との連携を通じて、今後の方向性を検討する。

○ 学生支援センターでの取り組み

【現状】

学生のボランティア活動は、野外活動指導、社会福祉施設での支援、行事（イベント）支援、学習支援、地域での清掃活動等、様々な活動に参加している。クラブによる課外活動では、青少年の立ち直り支援、小学生と遊びを通じて土曜に行う学び教室、社会福祉施設でのお誕生日会や音楽イベントの開催などのボランティア活動を積極的に行っている。

【課題】

経済的に厳しい家庭が多くなっていることもあり、アルバイトを優先する学生が増えてきている現状ではあるが、一方で自分の将来目標の達成に向け、ボランティア活動等を優先する学生も少なくない。教育職のみならず、企業では学生時代のボランティア活動等は高く評価され、学生自身にとっても貴重な体験となるため、一人でも多くの学生にボランティア活動等に取り組んでもらいたい。

【改善計画】

ボランティア活動は学生自身の社会性を向上させ人間力を高めることができるが、ボランティア経験のない学生が参加することもあることから、危険を伴う活動、事故・災害時の補償や本人の過失による賠償責任等について十分な精査を行い、ボランティア活動に参加しやすい環境作りを行っていきたい。

【5-C-1備付】 地域貢献の取り組みについての資料